2011 年度 第 9 回

地質学セミナー

日時：9月 28日（水）
17時～
場所：総合研究棟Ｂ棟 110 教室

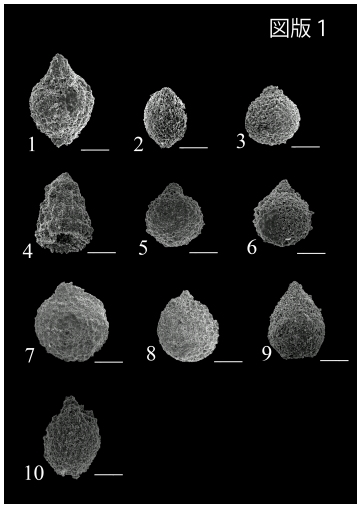
足尾山地南部の中生層

発表者 2 生物圏変遷科学分野 岩見 崇弘

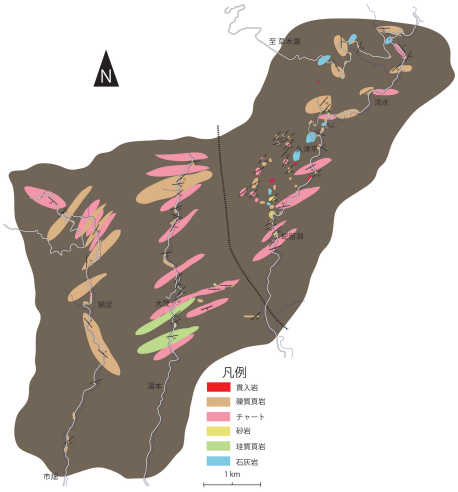
群馬県の梅田町およびその周辺地域にはチャート、石灰岩、礫質泥岩、緑色岩等からなる足尾帯中生層が広く分布する。足尾帯南部地域はKamata(1996)により放散虫層序および構造層序をもとに、詳しい地質学的研究が行われている。しかしながら梅田町およびその周辺地域に関しては林ほか(1990)以外、岩相分布、地質構造、層序、年代に関しての詳しい検討はほとんど行われていない。卒業研究では調査地域をほぼ南北に流れる高沢川、押山川、桐生川にそって調査を行った。調査地域には黒色泥岩、礫質泥岩、チャート、砂岩、珪質頁岩、石灰岩がほぼ北東―南西方向の走向で分布する。これらは一般的に南東方向に急傾斜する。卒業研究の調査地域について岩相組み合わせをもとにコンプレックスAおよびコンプレックスBに区分した。コンプレックスAは黒色泥岩を基質として珪質頁岩、礫質頁岩、層状チャート、緑色岩をスラブ、レンズ、ブロックとし含むメランジュからなる。一方コンプレックスBは黒色泥岩を基質とし、礫質泥岩、層状チャート、石灰岩、砂岩および緑色岩をスラブ、レンズ、ブロックとして含むメランジュである。両コンプレックスから産する放散虫化石は保存がきわめて悪いもののコンプレックスAを構成する珪質頁岩から散虫化石の*Tricolocapsa*(?) *fusiformis* , *Tricolocapsa plicarum Y, Hsuum maxwelli* 等の放散虫化石が得られた。またレンズ状に含まれるチャートブロックから三畳紀中期を示すと思われる*Pseudostylosphaera sp.*が識別された。これら放散虫の産出によりコンプレックスAの年代はジュラ紀中期～後期である事が明らかになった。また、コンプレックスBに含まれる石灰岩からはほとんどが長兄50m以下のレンズ状を呈する塊状石灰岩である。特に桐生川上流にあたる蛇留淵付近に露出する石灰岩は古くから蛇留淵石灰岩と称され*Parafusulina*を主体とする紡錘虫やサンゴ、腕足類、三葉虫が報告されている。

調査地域に分布する中正層はその年代、高西岸類から調査地域南方に位置するKamata(1996)の葛生コンプレックスに対比される。

博士前期課程での研究は卒業研究で行った梅田町およびその周辺地域から東方の地域において岩相分布、地質構造、層序、年代の詳しい調査を行う。現在、研究地域を南北に流れる大戸川、秋山川にそって調査を行なった。調査地域には黒色泥岩、層状チャート、珪質頁岩、砥石型珪質頁岩がほぼ北東―南西方向で分布し、これらは一般に南東方向に急傾斜する。砥石型珪質頁岩からは三畳紀中期を示す*Neostrachanognathus tahoensis*が識別された。また、チャートブロックからは三畳紀中期を示すと思われる*Pseudostylosphaera sp.*が識別された。こんごさらに詳しい調査を行い、本研究地域の詳しい岩相分布、地質構造、層序、年代を明らかにする。



図版１：梅田町周辺地域で産出した放散虫化石



図：梅田周辺地域の地質図

次回のお知らせ

日時: 10月 5日 (水)　17時より
発表者: 矢野さん
吉江さん

連絡先

下野 貴也　(地球物性科学 D2)
t_shimono@geol.tsukuba.ac.jp

上松　佐知子（生物圏変遷科学）
agematsu@geol.tsukuba.ac.jp